

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## ■ めざす学校像

「健全な市民を育成し、中河内を活性化する有為な人材を輩出する中堅校として、地域から厚く信頼される学校」をスローガンに以下の5点をめざす。

- ①「18歳での進路実現！」を目標に充実したキャリア教育を実践する総合学科
- ②「社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）」を育成する総合学科
- ③「基礎・応用・実践力の養成」を目標に授業で鍛える総合学科
- ④「共生推進教室でインクルーシブ教育」を実践する総合学科
- ⑤「校内組織のシステム化と活性化」で教職員が躍動する総合学科

## 2 中期的目標

今後の3年間を、学校のシステムや教職員の意識改革の結果を出す3年間と捉え、以下の5点を学校の中期目標とする。

## 1. 「18歳での進路実現！」を目標に充実したキャリア教育を実践する総合学科

- (1) 中退率の減少 …平成23年度に中退率が半減し、その後も減少傾向にある。中高連携の緊密化やスクールカウンセラーの活用等を通して中退防止に努める。  
※今後3年間で中退率府平均1.7%以下を目標とする。
- (2) 進路未決定者の減少 …現状は、進路未決定率が13.2%（浪人生を除く）と府平均の10%を上回っている。学校経営推進費を活用した「未来創造室」の活用と新たに作成した「樟風マップ」に基づき、10年後の自分を見据えたキャリア教育を実践して生徒の進路意識を高める。  
※平成29年度には進路未決定率8%以下を目標とする。
- (3) 就職決定者の増加 …「未来創造室」の活用とキャリア教育の充実によって、就職指導を一層充実させる。  
※就職内定率89.9%（平成26年度）を平成29年度には100%に上昇させる。とくに就職試験一次合格率を75%以上とする。
- (4) 中堅私立大学進学の実現 …「未来創造室」の活用と補講、勉強合宿等の充実により、進学希望者をサポートする。  
※平成27年度以降も毎年複数名の中堅私立大学合格者を輩出する。

## 2. 「社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）」を育成する総合学科

- (1) 公共心と規律性を備えた樟風生を育てる …重点的に取り組むことは、①授業規律②欠席・遅刻指導③服装・頭髪指導④あいさつの4点である。  
※遅刻者総数については、平成27年度から現状の1割減を毎年推進し、平成29年度には現状の1/2以下をめざす。平成26年度は59.9%だった生徒向け学校教育自己診断の全般の項目に関する肯定感の平均を毎年3ポイント以上向上させ、平成29年度には肯定感70%以上をめざす。
- (2) クラス活動で鍛える …体育祭・文化祭等の行事を通じてクラス活動の活性化を行う。  
※生徒向け学校教育自己診断において平成26年度は59.7%だった「クラス活動は活発である」の肯定感を毎年3ポイント以上向上させ、平成29年度には肯定感70%以上をめざす。
- (3) 生徒会活動で鍛える …毎日の挨拶運動や学校行事の企画・運営など現在の生徒会執行部の活動を継続・強化していく。  
※生徒向け学校教育自己診断の自主活動に関する項目の肯定感の平均を毎年3ポイント以上向上させ、平成29年度には肯定感70%以上をめざす。
- (4) クラブ活動で鍛える …平成26年度のクラブ加入率は41.3%と前年度より大きく上昇した。平成27年度からも体験入部の工夫や積極的な勧誘によって新入生のクラブ加入率を高めていく。  
※クラブ加入率を毎年3ポイント以上向上させ、平成29年度には、50%以上をめざす。
- (5) 地域貢献で鍛える …幼・保・小・中・大だけではなく、東大阪市子育て支援センター・公民館・瓢箪山商店街・ロータリークラブ・農協等とのコラボレーションを促進する。また、縄手北ふれあいネットワーク、瓢箪山まちづくり協議会、枚岡中学校区地域教育協議会、東大阪市まちづくり意見交換会などに積極的に参加することで地域貢献を推し進める。  
※生徒向け学校教育自己診断の地域連携に関する肯定感の平均を毎年3ポイントずつ押し上げ、平成29年度には60%以上の肯定感をめざす。

## 3. 「基礎・応用・実践力の養成」を目標に授業で鍛える総合学科

- (1) 授業で鍛える …生徒向け学校教育自己診断の学習指導に関する肯定感の平均が平成26年度は48.5%という状況を踏まえ、パッケージ研修の実施、授業アンケートの活用、公開授業、教員同士の授業観察、研究授業等により教員の授業力の向上をめざす。  
※生徒向け学校教育自己診断における学習活動の肯定感の平均を毎年3ポイント以上向上させ、平成29年度には60%以上の肯定感をめざす。
- (2) 6系列で鍛える …6つの系列のさらなる個性化を促進する。また、系列での地域貢献を推し進めるとともに、外部講師等を積極的に活用する。  
※生徒向け学校教育自己診断の各系列での「授業が自分のためになっている」という項目を最低60%以上、平均70%以上をめざす。

## 4. 「共生推進教室でインクルーシブ教育」を実践する総合学科

- (1) 共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する …共生推進教室教育の充実を図り、共生推進教室生徒の成長を促すとともに、「ともに学び、ともに育つ」をコンセプトに学習活動や部活動、学校行事等においてインクルーシブ教育を実践する。  
※生徒向け学校教育自己診断の共生推進に関する肯定感の平均を毎年3ポイント以上向上させ、平成29年度には65%以上の肯定感をめざす。
- (2) 人権教育で鍛える …同和問題や在日外国人問題など人権HRを充実させることで生徒の人権意識を育む。  
※生徒向け学校教育自己診断の人権教育に関する肯定感の平均を毎年3ポイント以上向上させ、平成29年度には65%以上の肯定感をめざす。

## 5. 「校内組織のシステム化と活性化」で教職員が躍動する総合学科

- (1) 校内組織のシステム化と活性化 …首席連絡会、学年主任会議、将来構想委員会、運営委員会、職員会議の連携を強化し、有機的に機能するように工夫する。  
また、教職員の意見のボトムアップに努め、各種会議と分掌・学年間が情報を共有して課題の解決にあたることできるように校内組織のシステム化と活性化を図る。  
※教職員向け学校教育自己診断において、学校経営の肯定感の平均を毎年3%ずつ引き上げ、29年度には75%以上の肯定感をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年11月実施分]   | 学校協議会からの意見   |
|--|--|
| <p>【総論】</p> <p>○懲戒件数や遅刻者数の減少、頭髪・服装等に見られるように生徒の基本的な生活習慣や授業規律は昨年度に比べ格段に良くなった。これらは教職員の熱心な取り組みの結果である。</p> <p>○学校教育自己診断の提出率は、生徒はH26年度の89.2%から92.6%に上昇したが、保護者はH26年度の45.7%から40.8%へ減少した。教職員は2年連続100%であった。</p> <p>○生徒においては、約8割の項目において肯定感が上昇している。特に総合学科、学習指導、生徒指導、進路指導、地域連携、保健・安全、人権教育、共生推進の項目ではほとんどの質問で肯定感が上昇している。</p> <p>○保護者においては、肯定感が上昇した項目は約3分の1にとどまった。</p> <p>○教職員においては、肯定感が上昇した項目は約3分の1にとどまったが、学習指導や進路指導では多くの項目で肯定感が上昇した。</p> <p>○今後も引き続き、生徒指導の徹底を図りながら、授業で生徒の学力を伸ばして多様な進路希望を実現していく必要がある。</p> <p>【学校経営】</p> <p>○全体の肯定感の平均は54.6%でH26に比べ14%減少した。</p> <p>○校長の学校経営理念の明確化やリーダーシップの発揮については肯定感が80.4%で、昨年に比べて6.1%減少した(H26は86.5%)。学校運営方針共有化のもとで、さらなる校長のリーダーシップの発揮が求められる。</p> <p>○教職員が意欲的に取り組める環境に関しては37.7%、各分掌や各学年間の連携については41.9%、各種会議の有効な機能については38.7%と肯定感が低くなっている。今後は組織を見直し、教職員が意欲的に取り組める環境を整備していく必要がある。</p> <p>【学習指導】</p> <p>○生徒においては、8項目中7項目で肯定感が上昇した。特に「授業は規律正しく行われている」の肯定感が6%以上上昇した。また、「授業は自分のためになっている」や「学習の評価」についての肯定感は60%を超えている。「授業はわかりやすく楽しい」の項目は上昇したが、肯定感は40%台と低かった。</p> <p>○保護者においては昨年度と大きな差異は見られなかった。ただし、「通知表のわかりやすさや工夫」に関しては肯定感が9%減少しており、保護者への情報伝達の在り方に課題が残った。</p> <p>○教職員においては、10項目中8項目で肯定感が上昇した。「指導内容についての教科横断的な話し合い」が30%台と肯定感が低かった。また、「授業見学の機会」に関する項目は、昨年度より授業見学数が増えているにも関わらず、肯定感が減少した。</p> <p>○今年度も「授業で勝負する学校」をスローガンに教員の授業力向上を大きな目標として掲げた。パッケージ研修支援Ⅱなどを通じて、めざす授業に関する共通認識を持ち、話し合う機会が持てた。また、授業規律に関しては昨年度より一層改善したので、今後は「わかりやすく楽しい授業の実践」が大きな課題である。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○教職員の熱心な指導により、昨年度に引き続き遅刻者数が減少し、懲戒件数は激減した。頭髪や服装違反もほとんどなくなり、学習環境はさらによくなった。そのことを反映して、教職員、保護者ともに生徒指導に関する肯定感は80%弱と高くなっている。</p> <p>○生徒は、厳しい生徒指導を徹底したにもかかわらず、生徒指導に関する肯定感は7項目中5項目で上昇し、生徒指導全体の肯定感が初めて50%を超えた。特に、「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」の項目の肯定感は60%を超え、「先生は協力して生徒指導に当たっている」の項目の肯定感も60%近くになっている。</p> <p>○保護者に関しては、「イエローカード制度」に関する肯定感が86.1%と高くなっている。これは本校の生徒指導が保護者に理解されていることの表れであるといえる。</p> <p>○教職員の生徒指導に関する肯定感は昨年度と大きな差異はなく、全体の肯定感の平均は78.4%と高くなっている。</p> <p>○今後も現在の流れを大切にしながら、生徒と向き合い、より高いハードルを設定し生徒を引き上げる生徒指導を継続していきたい。</p> <p>【自主活動】</p> <p>○肯定感の平均は、生徒・保護者・教職員ともに昨年度と大きな差異はなかった。生徒においてはクラス活動や体育祭・文化祭などの学校行事の肯定感が上昇した。これは、生徒会が中心となってホームルーム活動や学校行事を盛り上げたことが大きな要因であると考えられる。</p> <p>○今後も生徒会が中心になって行事の企画や運営を主体的に行い、「ルールを守りながら行事を楽しむ」という本校の伝統を築いていくことが必要である。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○生徒においては全項目で肯定感が上昇し、初めて肯定感の平均が70%を超えた。特にH26に学校経営推進費で新設した進路指導室(「未来創造室」)を有効活用したことにより、「進路指導室は利用しやすい」の項目は10%以上肯定感が上昇した。保護者の進路指導全般に関する肯定感は昨年並みであるが、進路指導全体に対する肯定感の平均は72.7%と高くなっている。また、教職員は進路指導全体の肯定感の平均は90.6%と非常に高く、多くの項目で肯定感が上昇した。これは、教職員の熱心な指導が就職内定率の上昇や進路未決定率の減少などにつながっていることに要因がある。</p> <p>○今後も「樟風マップ」の活用や「未来創造室」の有効利用など、キャリア教育に力を注ぎ、生徒の進路実現を一層図っていききたい。</p> <p>【地域連携】</p> <p>○地域連携に関する肯定感は特に生徒で9.5%上昇し、初めて60%を超えた。また、保護者や教職員の地域連携に関する肯定感は昨年度と大きな差異はなかった。</p> <p>○今後も中学校をはじめとする地域の学校園や企業等との関係を重視し、地域から信頼される学校づくりをしていきたい。</p> <p>【保健指導・安全教育・美化】</p> <p>○生徒においては3項目の肯定感がすべて上昇したが、校内美化に関しては肯定感が47.1%とまだ低い。保護者と教職員は肯定感の平均は70%代後半と高くなっている。校内美化は施設の老朽化などの問題もあるが、今後も日常清掃の徹底などを図っていく必要がある。</p> | <p>第1回(6/20)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保護者からの意見提出状況：なし</li> <li>2 本校の現状と課題について説明</li> <li>3 平成27年度学校経営計画について説明</li> </ol> <p>【教員の授業力向上について】</p> <p>○授業規律の徹底が重要である。</p> <p>○昨年度のパッケージ研修支援に引き続き今年度もパッケージ研修支援Ⅱを継続して行うのは良いことである。教職員全体で授業について考える良い機会なので、内容の深い研修にしてほしい。</p> <p>○授業アンケートは個人による分析だけでなく、各教科による分析も行った方が効果的である。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○4 連続国立大学合格、同志社女子大や龍谷大などの中堅私立大学合格、進路未決定率の減少は大きな成果である。</p> <p>○昨年度に学校経営推進費を活用して新設した「未来創造室」を有効に利用すること、「樟風マップ」に基づいた3年間トータルのキャリア教育を行うことが重要である。</p> <p>○2年生のインターンシップや講演会は拡充した方が良い。</p> <p>○大阪府中小企業家同友会との教職員研修は興味深い。ぜひ進めてほしい。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○年間遅刻者数が41%激減しているのは生徒指導の徹底の表れであり素晴らしい。</p> <p>○学年間の生徒指導の基準の統一するためには集会が良い方法である。</p> <p>○生徒の服装や頭髪の様子を見ていると、その学校の状況がよくわかる。枚岡樟風高校は本当に良くなった。今の状態を継続して欲しい。</p> <p>【部活動】</p> <p>○部活動の加入率が増加したのは素晴らしい。グラウンド等で生徒が活動していると、よい広報になる。頑張ってもらいたい。</p> <p>【共生推進教室及び人権教育】</p> <p>○さまざまな人権問題にホームルーム等で取り組んで欲しい。</p> <p>○総合学科と共生推進教室のベストミックスをめざして欲しい。</p> <p>【平成28年度入試選抜に向けて】</p> <p>○総合学科の特色を活かすことが重要である。</p> <p>○地域との連携を大切にして、地域から信頼される学校になれば志願者は多くなる。</p> <p>第2回(11/20)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保護者からの意見提出状況：なし</li> <li>2 授業見学</li> <li>3 平成27年度学校経営計画の進捗状況について説明</li> </ol> <p>【教員の授業力向上について】</p> <p>○授業規律の重要性や授業のねらいの明確化など、授業を見学しての意見や感想が委員から出された。</p> <p>○授業力の向上のためには授業研究を活性化することが重要である。</p> <p>○他の教員の授業を観察することは貴重であり、特に経験年数の少ない教員には有効である。</p> <p>○授業だけでなく、学校の様々な仕事をこなすことが教員力を鍛えることになる。</p> <p>【進路指導】</p> <p>○3年生だけでなく、3年間トータルのキャリア教育が大切である。特に1,2年生の進路に関する意識の養成を図ることが課題である。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>○懲戒件数は激減しているが、遅刻者数の減少が昨年度に比べて少ない。</p> <p>○キャンペーン週間の設定など新しい生徒指導の方策を考えていく必要がある。</p> <p>○生徒指導においては、生徒に合わせるのではなく教員側が高いハードルを設定することが重要である。引き続き指導をしっかり行ってほしい。</p> <p>【共生推進教室及び人権教育】</p> <p>○3年間トータルの人権ホームルームを実施して、生徒の人権感覚を高めて欲しい。</p> <p>第3回(2/19)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保護者からの意見提出状況：なし</li> <li>2 学校教育自己診断の結果及び分析</li> </ol> <p>○提出率、学習活動、生徒指導、進路指導、自主活動、人権教育等について説明</p> <p>○保護者の提出率の向上が今後の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 平成27年度学校経営計画及び学校評価について</li> <li>平成28年度学校経営計画について</li> </ol> <p>【授業について】</p> <p>○「授業で勝負する学校」になってほしい</p> <p>○パッケージ研修を継続した方が良い</p> <p>○授業研究、授業観察、教職員研修の実施を奨励していただく</p> <p>【生徒指導について】</p> <p>○入試制度が変更になり、今が勝負時である</p> <p>○基本的な生活習慣や授業規律の確立に一層頑張ってもらいたい</p> <p>【進路指導に関して】</p> <p>○平成27年度の進路未決定率の大幅な減少は素晴らしい</p> <p>○3年間トータルのキャリア教育、特に1年生、2年生の進路に関する意識の養成をしっかりとすることが課題</p> <p>【共生及び人権教育について】</p> <p>○人権HRを3年間で計画的に行い、生徒の人権感覚を養うことが大切</p> <p>○人権HRの実践は、経験の浅い教員の力量向上にもつながる</p> <p>【まとめ】</p> <p>○学校は生徒によって変わるのではなく、先生方の姿勢によって生徒が変わり、学校は成長する</p> <p>○チーム樟風でしっかり生徒を育ててほしい</p> |

|   |  |
|---|--|
| <p>【人権教育・教育相談】</p> <p>○人権教育に関しては、生徒の肯定感の平均は 2.5%上昇して 61.2%、保護者は 0.3%減少して 84.8%、教職員は 1.0%上昇して 61.5%であった。特に、教職員の「同和問題や在日外国人問題・ジェンダー問題などを正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざすための学習となるよう工夫している」、「感性を高める指導」については肯定感が 40%台と低くなっている。</p> <p>○人権HR等の計画的な実施を通じて、様々な人権問題に積極的に取り組んでいくことが課題である。</p> <p>○教育相談に関しては、生徒・保護者・教職員いずれも昨年度と大きな差異はないが、保護者と教職員の肯定感の平均は約 80%と高い。これは、スクールカウンセラーと連携し、教育相談が十分に機能していることの表れであるといえる。</p> <p>【共生推進】</p> <p>○肯定感の平均は、生徒においては 3.5%上昇、保護者と教職員においては昨年度並みであった。ただし、保護者の肯定感の平均は 81.9%、教職員の肯定感の平均は 88.9%と非常に高く、本校の共生推進教室の「ともに学び、ともに育つ」というコンセプトが浸透し、インクルーシブ教育が行われていることの表れであるといえる。</p> <p>○共生推進教室の生徒は部活動にも参加して公式戦に出場するなど、学校生活の中で鍛えられている。</p> <p>○今後も大阪府のインクルーシブ教育のモデル校となるような実践に励んでいきたい。</p> |  |
|---|--|

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標                                      | 今年度の重点目標  | 具体的な取組計画・内容   | 評価指標   | 自己評価  |
|--|---|---|--|---|
| <p>・「18歳での進路実現」を目標に充実したキャリア教育を実践する総合学科</p> | <p>(1)基礎学力の向上、中高連携の強化、教育相談委員会の活動などにより中退率を減少させる</p> <p>(2)進路未決定者の減少</p> <p>(3)就職決定者の増加</p> | <p>(1)中退防止<br/>ア. 毎月開催される教育相談委員会に中退防止の視点を加え、保健室来室状況から中退予備群生徒をリストアップし、原因克服に対応する。<br/>イ. 家庭連絡、家庭訪問の状況、家庭状況の把握等を丁寧に行い、場合によっては社会福祉施設等との連携を行う。<br/>ウ. 定期的な中高連携に留まらず、時期を逸しないように中学校との連携を強化する。<br/>エ. 中退防止コーディネーターを教育相談担当(人権担当)に充て、校内の取りまとめと学校外への窓口を充てる。</p> <p>(2)(3)進路未決定者の減少と就職決定者の増加<br/>ア. 学校経営推進費を活用した「未来創造室」を有効に利用して、進路未決定率を毎年3%ずつ減少させる。<br/>①「未来創造室」を活用して、進学や就職の資料閲覧やインターネットでの検索、進路相談をやすくする。<br/>②授業やHR等で「未来創造室」を活用して、生徒の意識改革や学力伸長をめざす。<br/>イ. 「樟風マップ」(3年間トータルの進路指導計画)に基づき、進路指導部と学年、系列で連携したキャリア教育を行っていく。学校経営推進費を活用して教職員のキャリア教育研修や他府県のキャリア教育先進校の視察を実施していく。<br/>①1年次より、いろいろな分野の人を招いての講演を開催し、生徒の進路意識を高めていく。また、1年次は産業社会と人間で、前期のガイダンス指導を徹底しミスマッチをなくす。後期の系列別授業の強化を行い、2年次以降の系列での学習と目標とする進路のマッチングを行っていく。<br/>②2年次では、就職希望の生徒はインターンシップに、進学希望の生徒はオープンキャンパスに積極的に参加させ、進路実現へのモチベーションを向上させる。系列の学習を大学・専門学校などの学校外の資源を十分に活用しながら内容を充実させる。<br/>③3年次では、進路指導部と系列が連携した進路指導・就職指導を行い、今年度の面接指導・応募前職場見学参加指導を継続し、実績の向上をめざす。</p> | <p>(1)中退防止<br/>中退率の減少<br/>(平成26年度2.0%)<br/>ア～エ. 教育相談委員会の開催回数(H26:6回)<br/>ウ. 中高連携の緊密化<br/>(H26出前授業3回、中学校での学校説明会3回)</p> <p>(2)(3)進路未決定者の減少と就職決定者の増加<br/>ア. イ. 進路未決定者の割合12%未満<br/>(H26:13.2%)<br/>就職内定率95%以上<br/>(H26:89.9%)<br/>就職試験一次合格率70%以上(H26:72.6%)</p>  | <p>(1)中退防止<br/>中退率は1.8%(H26は2.0%)(◎)<br/>ア～エ. 教育相談委員会を7回開催(H26は6回)、2か月に1回開催。各学年より対象生徒についての情報が提供され、構成員で共有した。(○)<br/>ウ. 出前授業2回、中学校での学校説明会3回、新たに中高相互の授業見学3回(H26は出前授業3回、中学校での学校説明会3回)(○)<br/>○次年度以降も、中学校訪問を積極的に行うとともに、中高連携の緊密化やスクールカウンセラーとの連携、教育相談委員会の活性化を通じて、中退防止に努めていく。</p> <p>(2)(3)進路未決定者の減少と就職決定者の増加<br/>ア. イ. 「未来創造室」の有効活用やきめ細やかな進路指導により進路未決定者が激減した。<br/>・進路未決定者の割合は4.9%であり、8.3%減少した(H26は13.2%)(◎)<br/>・就職内定率は98.6%(H26は89.9%)(◎)<br/>・就職試験一次合格率は69.2%(H26は72.6%)(△)<br/>イ. 進路指導部2名が昨年度獲得した学校経営推進費を活用して、昨年度に引き続き他府県のキャリア教育先進校を視察し、職員会議で報告。</p> <p>①1年生では「樟風マップ」に基づき、樟風検定を行うなど基礎学力の充実に努めている。また、分野別説明会や2年生のインターンシップ報告会を実施した。<br/>②2年生のインターンシップ参加人数が77人に上り、昨年度の29人の2.7倍となった。また、分野別説明会では就職希望者に対する会社見学を初めて実施した。<br/>③3年生ではきめ細やかな指導により進路未決定者を激減させた。<br/>○次年度以降も、3年間トータルのキャリア教育を推進して生徒の希望する進路の実現を図り、進路未決定者数を減少させていく。</p> |
|  | <p>(4)中堅私立大学進学の実現</p>   | <p>(4)複数名の中堅私立大学の合格者輩出<br/>ア. 「未来創造室」を有効に活用する。<br/>①進学情報の提供を活発に行う。<br/>②1年次から学力生活実態調査を実施し、個々の生徒の学力状況を把握し、状況に応じた指導を行う。<br/>イ. 「樟風マップ」に基づき、進学講習やオープンキャンパス参加の拡充等によって、生徒の意識改革や学力向上をはかる。<br/>ウ. 保護者向けの進学説明会などを経済的な面を含めて計画的に実施し、大学進学に向けて家庭の協力を得られるようにする。<br/>エ. 夏期及び春期に勉強合宿を開催し、学習方法の習得や学習へのモチベーションの向上をめざす。<br/>オ. 夏期休業中は、全学年で講習を国・数・英で開催する。必要に応じて社会・理科・小論文の講座も開く。</p>  | <p>(4)複数名の中堅私立大学合格<br/>ア. イ. 大学合格実績<br/>・人文・理数系列及び農と自然系列において産近甲龍等の合格者輩出(H26:1名)<br/>・情報系列及び工業デザイン系列において大阪工業大学・大阪電気通信大学合格者輩出(H26:4名)<br/>・福祉・保育系列において大阪樟蔭女子大学・関西福祉科学大学合格者輩出(H26:4名)<br/>・全系列において摂南大学・桃山学院大学・関西外国語大学等の中堅私立大学合格者輩出(H26:5名)<br/>ウ. 進路説明会回数(H26:3回)<br/>エ. 勉強合宿<br/>大学進学希望者30名以上参加(H26:18名)<br/>オ. 夏期講習<br/>延60名以上の参加(H26:延50名)</p> | <p>(4)複数名の中堅私立大学合格<br/>ア. イ. 大学合格実績<br/>・農と自然系列より近畿大学合格1名、人文・理数系列より武庫川女子大学合格1名(◎)<br/>・情報系列から大阪工業大学合格1名、大阪電気通信大学合格2名(◎)<br/>・福祉・保育系列から関西福祉科学大学合格1名(○)<br/>・摂南大学合格6名、桃山学院大学合格2名など中堅私立大学合格者14名(◎)<br/>ウ. 進路説明会回数2回(H26は3回)(△)<br/>エ. オ. 今年度は費用面を考慮して勉強合宿ではなく、学校での講習を3日間実施し、大学教授を2日間講師として招いた。参加者数14名(H26は18名)(△)<br/>○次年度以降は保護者向けの進路説明会の内容や時期を精選し、より多くの保護者に参加してもらえるように工夫する。<br/>○進学者向けの講習を計画的・継続的に行っていく必要がある。</p>  |

|  |                                |  |   |  |
|--|--------------------------------|--|---|--|
| <p>2. 「社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）」を育成する総合学科</p> | <p>(1) 公共心と規律性を備えた樟風生を育てる。</p> | <p>(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ<br/>                 ア. パッケージ研修や教職員研修を通じて、教職員の授業規律に関する意識改革を行う。<br/>                 イ. 登校指導の充実や遅刻過多者への早朝指導及び放課後指導を引き続き徹底し、遅刻者を減少させる。<br/>                 ウ. 服装・頭髪指導の学年間の基準の統一に努めるとともに、イエローカード制度の運用に関する教職員の認識を共有化して、生徒の規律性の育成を図る。<br/>                 エ. 問題事象について事例検討会を開催し、問題事象への対応方法や指導方針に関して教職員全体の共有化を図る。</p>         | <p>(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつア～エ。<br/>                 ・生徒向け学校教育自己診断「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感3ポイント以上の上昇<br/>                 (H26:52.9%)<br/>                 ・遅刻者数10%減少<br/>                 ・懲戒件数10%減少<br/>                 (H26:遅刻者数3310)<br/>                 (H26:懲戒件数51件)</p> | <p>(1) 授業規律は格段に良くなった。頭髪や服装違反はほとんどなくなり、遅刻数や懲戒件数も減少して、基本的な生活習慣が確立してきた。<br/>                 ア～エ。<br/>                 ・生徒向け学校教育自己診断「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感6.1%上昇して59.0%(H26は52.9%)(◎)<br/>                 ・遅刻者数0.2%減の3301(H26は3310)(○)<br/>                 ・懲戒件数51%減の25件(H26は51件)(◎)<br/>                 ・生徒向け学校教育自己診断「先生は協力して生徒指導に当たっている」の肯定感58.5%(H26は55.9%)(◎)<br/>                 ○次年度以降も現在の生徒指導体制を継続・進化させるため、キャンペーン指導週間の設定などの工夫を行っていく必要がある。</p> |
|  | <p>(2) クラス活動で鍛える</p>           | <p>(2) クラスで鍛える<br/>                 ア. 年間ホームルーム計画を作成し、ホームルーム活動を活性化させる。<br/>                 イ. 遠足・体育祭・文化祭という行事を中心に担任間の連携を強化し、クラス活動の活性化を図る。<br/>                 ウ. 保健部が中心となり毎日の清掃等の徹底を図る。</p>  | <p>(2) クラスで鍛える<br/>                 生徒向け学校教育自己診断「クラス活動は活発である」の肯定感3ポイント以上の上昇。<br/>                 (H26:59.7%)</p>   | <p>(2) クラスで鍛える<br/>                 体育祭や文化祭におけるクラスの催しはレベルが向上してきた。生徒向け学校教育自己診断「クラス活動は活発である」の肯定感1.9%上昇して61.6%であった(H26は59.7%)(○)<br/>                 ○ホームルーム活動と生徒会活動の連携をはかるため、生徒の委員会活動を活性化していく必要がある。</p>   |
|  | <p>(3) 生徒会活動で鍛える</p>           | <p>(3) 生徒会活動で鍛える<br/>                 ア. 体育祭・文化祭・学校説明会などで生徒会の役割を増やし、生徒会の強化を行う。<br/>                 イ. 体育祭や文化祭等の学校行事を一層活性化して、生徒の学校行事における自己達成感を高める。<br/>                 ウ. 朝の挨拶運動、生徒会通信の発行等を恒常的にを行い、生徒会活動の活性化を行う。</p>  | <p>(3) 生徒会活動で鍛える<br/>                 生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の肯定感3ポイント以上の上昇<br/>                 (H26:66.4%)</p>  | <p>(3) 生徒会活動で鍛える<br/>                 生徒会新聞(壁新聞)を毎月発行したり、生徒会役員選挙では複数の立候補者が争い落選者が出るまでになった。しかし、生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の肯定感7.6%減少して58.8%であった(H26は66.4%)(△)<br/>                 ○生徒会活動は年々活性化しており、役員選挙では立会演説会を実施するまでになった。今後もこの流れを継続し、生徒の自主的な活動を育てていきたい。</p>  |
|  | <p>(4) クラブ活動で鍛える</p>           | <p>(4) クラブ活動で鍛える<br/>                 ア. クラブ活動に関する情報の発信や体験入部等の工夫を通じて1年生の新規加入はもちろん年度途中の入部者を増やすことで、加入率の増加をめざす。</p>   | <p>(4) クラブ活動で鍛える<br/>                 加入率45%以上<br/>                 (H26:41.3%)<br/>                 生徒向け学校教育自己診断「部活動は活発である」の肯定感3ポイント以上の上昇<br/>                 (H26:66.1%)</p>   | <p>(4) クラブ活動で鍛える<br/>                 ・仮入部期間の延長などの工夫を行い、部活動加入率は42.3%に上昇した(H26は41.3%)(○)<br/>                 しかし、生徒向け学校教育自己診断「部活動は活発である」の肯定感4%減少して62.1%であった(H26は66.1%)(△)<br/>                 ○ダンス同好会がダンス部に昇格し、ボランティア同好会が設立されるなど、部活動は年々活性化している。しかし、加入率はまだ低い水準にとどまったままである。新入生勧誘に力を入れるなど新たな対策が必要である。</p>  |
|  | <p>(5) 地域貢献で鍛える</p>            | <p>(5) 系列やクラブ・生徒会で地域貢献<br/>                 ア. 枚岡中学校区及び縄手北中学校区地域教育協議会との連携を深め、秋の地域交流の企画に積極的に参加する。<br/>                 イ. 福祉・保育系列や農と自然系列を中心に旭町子育て支援センターや近隣の幼稚園・保育所との交流を促進し、地域への貢献を果たす。<br/>                 ウ. 農と自然系列を中心に瓢箪山地域まちづくり協議会との連携を深め、地域への貢献を果たす。<br/>                 エ. クラブや生徒会が中心となって、平成21年度より開始した地域一斉清掃を瓢箪山地域まちづくり協議会と連携しながら推進し、地域への貢献を果たす。</p> | <p>(5) 系列で地域貢献<br/>                 ア～ウ. 地域連携の回数の増加<br/>                 (H26:71回)<br/>                 新規の地域連携の回数<br/>                 (H26:10回)<br/>                 生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感平均3ポイント以上の上昇<br/>                 (H26:50.5%)</p>                                      | <p>(5) 系列で地域貢献<br/>                 ア～ウ<br/>                 ・地域連携の回数は105回(生徒会2、農と自然32、工業デザイン9、福祉保育17、基礎教養3、ボランティア同好会13、管理職29)(H26は71回)(◎)<br/>                 ・新規の地域連携の回数は11回(H26は10回)(◎)<br/>                 ・生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感平均は9.6%上昇して60.1%であった(H26は50.5%)(◎)<br/>                 ○地域連携は年々活発になっており、地元での本校に対する信頼度は確実に上昇している。生徒が地域の幼保小中学校園の児童生徒を教えるなどの企画を積極的に行い、地域から信頼される学校づくりを進めていく。</p>  |

|   |  |  |   |   |
|---|--|--|---|---|
| <p>3. 「基礎・応用・実践力の養成」を目標に授業で鍛える総合学科</p>  | <p>(1) 授業で鍛える</p> <p>(2) 6系列で鍛える</p>                 | <p>(1) 授業内容の充実で鍛える。<br/>ア. 年2回授業アンケートを実施し、振り返りシートをもとに授業改善をめざす。<br/>イ. 公開授業週間を通じて、教職員同士で授業観察を行い、授業観察シートを提出させる。<br/>ウ. 管理職による授業観察と事後指導を丁寧に行う。<br/>エ. パッケージ研修を行い、めざすべき授業の在り方を共有する。</p> <p>(2) 6系列で鍛える<br/>ア. 各系列とも①系列間のコラボレーション②地域連携③中高連携④高大連携等の形態のいずれかを実施し、生徒を鍛える場とする。<br/>イ. 「探究」発表大会を充実させ、系列ごとの成果を次年度に継承する。<br/>ウ. 系列に広報担当を設置し、系列での実践をホームページ等でリアルタイムで発信する。</p> | <p>(1) 授業力の向上<br/>ア. 教員の授業振り返りシートの提出率の向上 (H26: 83.6%)<br/>イ. 教員の授業観察件数の増加 (H26: 47件)<br/>エ. 教員全体の研究授業の実施 (H26: 6回)<br/>生徒向け学校教育自己診断の学習指導の平均3ポイント以上の上昇 (H26: 54.1%)</p> <p>(2) 系列の専門性と多様性の向上<br/>ア. 左記①～④の実施回数<br/>① (H26: 4回)<br/>② (H26: 71回)<br/>③ (H26: 4回)<br/>④ (H26: 18回)</p> | <p>(1) 授業力の向上<br/>ア. 7月及び12月に授業アンケートを実施。授業振り返りシートの提出率は、昨年度の83.6%から99.2%へ上昇した。(◎)<br/>イ. 教員の授業観察件数は昨年度の47件から63件に増加した。(◎)<br/>エ. 教員全体の研究授業は、パッケージ研修支援Ⅱの研究授業を含めて7回実施した。(H26は6回)<br/>(○)<br/>・生徒向け学校教育自己診断の学習指導全体の肯定感の平均は54.1%から56.4%へ2.3%上昇した。<br/>(○)<br/>○授業規律は確実に良くなり、授業アンケートにおける校内平均値も3.04から3.07へ上昇した。しかし、教員の授業力の向上は、引き続き本校の大きな課題であり、今後も研修や授業研究を通じて教員の授業力向上を図っていく。</p> <p>(2) 系列の専門性と多様性の向上<br/>ア. 左記①～④の実施回数 (○)<br/>①系列間コラボレーション4回 (H26は4回)<br/>②地域連携 (H27: 105回) (H26は71回)<br/>③中高連携 (H27: 6回) (H26は4回)<br/>④高大連携 (H27: 18回) (H26は18回)<br/>○系列は本校の大きな特色であり、今後も新たな地域連携を開拓するとともに、中高連携や高大連携を活発に行い、専門性を高めていく。</p> |
| <p>4. 「共生推進教室でインクルーシブ教育」を実践する総合学科</p>   | <p>(1) 共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する</p> <p>(2) 人権教育で鍛える</p> | <p>(1) 共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する<br/>ア. 共生推進教室生徒の成長を促すことで、総合学科生徒の人権教育を推進する。</p> <p>(2) 人権教育で鍛えて、安全で安心な学校づくりをめざす。<br/>ア. 新生生のクラス開き・学年開きで共生推進教室の生徒や配慮を要する生徒の紹介を行う。<br/>イ. 人権HR計画に基づいて、同和問題や在日外国人問題、新しい人権問題などを人権HRで扱い、生徒の人権意識を高める。<br/>イ. 日常的なクラス活動・クラブ活動・授業などで、配慮を要する生徒と共に学校生活を送る経験を積み、互いの理解の促進を図る。</p>  | <p>(1) 共生推進教室教育の充実で鍛える<br/>ア. 生徒向け学校教育自己診断の共生推進項目平均の3ポイント以上の上昇 (H26: 55.1%)</p> <p>(2) 人権教育で鍛える<br/>ア～ウ. 学校教育自己診断の人権教育項目の肯定感平均の3ポイント以上の上昇 (H26: 60.6%)</p>  | <p>(1) 共生推進教室教育の充実で鍛える<br/>ア. 生徒向け学校教育自己診断の共生推進項目の肯定感平均は58.6%で3.5%上昇した (H26は55.1%) (◎)<br/>○今年度も共生推進教室3年生は全員企業就労が決定した。総合学科と共生推進教室の生徒が「ともに学び、ともに育つ」ようなインクルーシブ教育を実践していくため、教職員の専門性を高めるとともに施設の充実を図っていく必要がある。</p> <p>(2) 人権教育で鍛える<br/>ア～ウ. 生徒向け学校教育自己診断の人権教育項目の肯定感平均は61.2%で2.5%上昇した (H26: 58.7%) (○)<br/>○3年間トータルの人権教育計画に基づいた人権ホームルームを展開して、障がい児者理解や同和問題、在日外国人問題など、さまざまな人権問題を取り上げ、生徒の人権意識を高めていく必要がある。</p>   |
| <p>5. 「校内組織のシステム化と活性化」で教職員が躍動する総合学科</p> | <p>(1) 校内組織のシステム化と活性化</p>                            | <p>(1) 校内組織のシステム化と活性化<br/>ア. 首席連絡会、学年主任会議、将来構想委員会、運営委員会、職員会議の連携を強化し、有機的に機能させる。また、教職員の意見のボトムアップに努め、各種会議と分掌・学年間が情報を共有して課題の解決にあたることのできるように、H28入試対策委員会と将来構想委員会を活用して校内組織のシステム化と活性化を図る。</p>  | <p>(1) 校内組織のシステム化と活性化<br/>ア. 教職員向け学校教育自己診断において、学校経営の肯定感平均の3ポイント以上の上昇 (H26: 68.8%)</p>   | <p>(1) 校内組織のシステム化と活性化<br/>ア. 教職員向け学校教育自己診断における学校経営の肯定感平均は54.6%で14.2%減少した (H26は68.8%) (△)<br/>○教職員の仕事の平準化を進めるとともに、各種会議の連携を強化して、教職員が意欲的に取り組める環境を構築していく必要がある。</p>  |